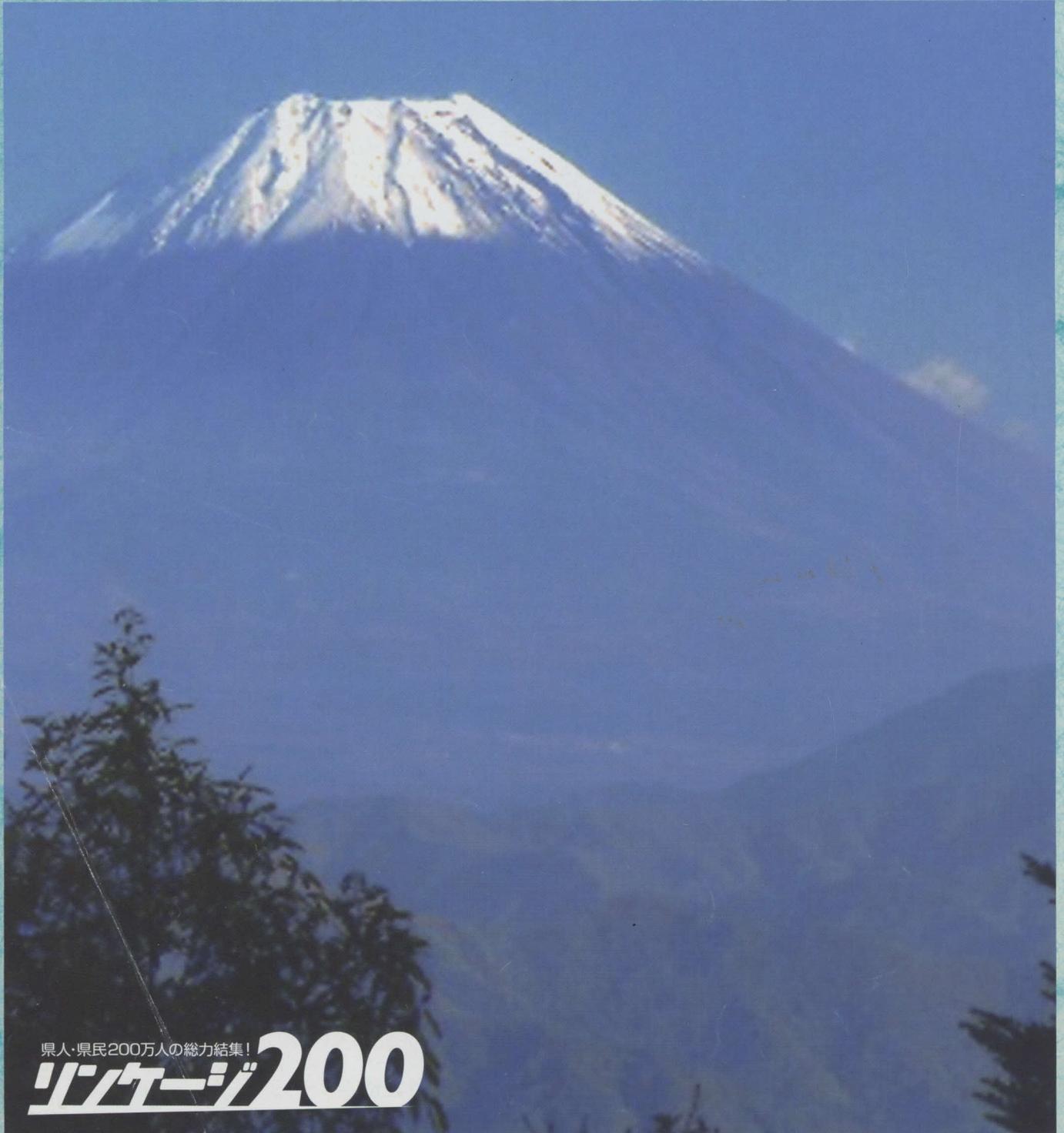


県人とふるさと山梨を結ぶ情報誌

富士の国

2014.
盛夏号
No.642

第65回山梨県人会連合会総会・懇親会開催 /
わがまちへようこそ・南アルプス市・甲州市 / 故郷に流れる歴史の風・樋口一葉 /
ふるさとの都市伝説 / やまなし掲示板 / 連合会だより



県人・県民200万人の総力結集!
メッセージ200

櫛形山から撮影 南アルプス市提供

山梨県人会連合会

多様化するニーズに 確かな品質と的確な対応



【営業品目】

- ◆産業紙袋
- ◆軟包装袋
- ◆ストレッチフィルム
- ◆美術印刷
- ◆各種和用紙
- ◆水溶性フィルム



株式会社 サンプランナー

代表取締役社長 相吉 英彦（北杜市須玉町出身）

【本社工場】〒135-0002 東京都江東区住吉 1-8-9

TEL:03(3634)6781 FAX:03(3634)6783 E-mail:sunplanner.com

富士の国

CONTENTS

- 04 第65回山梨県人会連合会総会・懇親会開催
- 08 わがまちへようこそ 南アルプス市
- 10 わがまちへようこそ 甲州市
- 12 故郷に流れる歴史の風 樋口一葉
- 13 ふるさとの都市伝説
- 14 Party & Information
- 21 がんばれ!ヴァンフォーレ甲府
- 22 やまなし掲示板・連合会だより

特集

第65回山梨県人会

連合会総会・懇親会開催



山梨県人と県民は、理想の友人である
We are ideal friendsをめざして、
より一層の人間力と組織力の結集を

5月31日（土）午前11時より

続いて記念すべき第65回とな

新宿京王プラザホテルにて、第
65回山梨県人会連合会（弦間明
会長）の総会・懇親会が460
名の参加を得て開催された。

続いて記念すべき第65回とな
る本会の実行委員長、根津公一
副会長（東武百貨店会長）が
「昭和初期の山梨県人会連合会
の発足に関わった祖父の根津嘉
一郎はその設立趣意書で、山梨

小俣雅子さん（都留市出身）

一郎が心をあわせて共存し支え

の司会進行。青年部によって連
合会旗入場し会がスタート、弦
間会長に手渡された。長田正総
務部長が開会のことばを述べた
後、会の物語者に対して全員で
黙祷を捧げた。

県人が心をあわせて共存し支え
あおうと記していますが、それ
は弦間会長の掲げる県民85万人
と県人120万人とが心をつな
ぎ、より一層の人間力と組織力
の結集を



想と見事に一致するものです。一層人間力と組織力を結集させたい。今年はリンケージの山梨は昨年度、ふるさと暮らしやすさランキングで全国2位に入りました。豊かな自然環境を生かした産業育成や交通アクセスの整備など、首都圏とふるさと山梨との交流を、一層発展させるために力をあわせていきたいと思います」と挨拶した。

弦間会長は「昨今の国際状況から、エネルギー資源の開発や地球への共生がますます求められて来ています。国際社会の中心的存在として、憧れの国といわれる日本になると確信しています。2020年の東京オリンピックに向けて、観光、文化立県として山梨にも成長を予感させる新しい波が次々に押し寄せてきています。県人会連合会としても、ふるさとリンケージ2000構想を柱として、より

「We are ideal friends」すなわち私達山梨県人は理想の友人である、をキャッチフレーズとしています。そのエンジン（活動源）として、現役の経営者と若者との交流会、各市町村長や県議と県人会連合会役員との懇談会、各県人会との相互交流など、これまで以上に新しい人間関係、ビジネス関係を築くことを強化、推進しています。交流を通じて名誉と品性を重んじる県人をめざしましょう」と力強く語った。

弦間会長を議長として議案審議に入り、長田総務委員長より会務報告、網倉和仁会計より決算及び予算、有野征雄監事より

梨県人会連合会 第65回総会・懇親会



監査結果報告、中岡啓子事業委員長より事業計画案、土橋正役員選考委員長より、役員改選、会則改定案と各議案の上程があり全て拍手をもって承認された。なお役員改選により、中岡啓子副会長が新事業委員長に、飯島登美夫副会長と中村芳文副会長が新会計に、伊藤朝子常任理事が新監事に選任され、その他の役員は全員重任された。

来賓祝辞として横内正明県知事は、ふるさと納税や大雪被害への寄附など県人会連合会からの支援に謝辞を述べ「昨年の富士山世界文化遺産登録により外国人観光客が激増しています。この勢いだとう東京オリンピックまでにこの3倍、4倍の外国人観光客が訪れるのではないか。それに対応できる環境作りを今からしっかりとやっていきたい。

また都留市に新しくリニア見学センターが出来ましたが2階のテラスからは時速500キロでリニアが走るのが目の前に見えますので、その迫力を是非実感してほしい。大雪被害では高速道路の重要性を思い知らされましたが、4年後に甲府盆地から静岡まで開通する中部横断自動車道など交通インフラ整備も着々と進んでいます」と県としての展望を語った。続いて宮川典子衆議院議員、小野次郎参議院議員、土橋亨県議会副議長、白倉政司北杜市長が祝詞を述べた。来賓紹介の後、中込勝子副会長が「今のこの心の温もりと65年の歴史を明日に繋げて親睦を深めていきましょう」と総会を締め括った。

「甲州弁ラジオ体操」の号令が会場に流れ、「いい気持ちず



ら」など甲州弁による掛け声とともに全員で身体を解した後、懇親会に移った。長坂紘司副会長が、関西圏（大阪）でも活性化している山梨県人の交流の様子を紹介して開会のことばを述べた。

「ピーケーボーンズ」による60年代ポップスなどを楽しんだ。宮島雅展甲府市長は「NHKの朝ドラ『花子とアン』で、甲府や甲州弁が一躍脚光を浴びることになったが、『こぴっと』や、『て』 だけでなく、

志村司郎会長代行は「本日用意されましたワインは、県から寄贈されました。横内知事は山梨のワインを広めようと世界中をトップセールスして、フランスを中心としたヨーロッパ圏だけで既に1万5000本を輸出したと聞きました。山梨ブランドを世界に広めて暮らしやすさ

『ソーさよー』という相手を温かくつつむ言葉も甲州弁にはある」と飛び入りでスピーチして、拍手喝采。

日本一の山梨をめざしましよ」と、勝沼スパークリングワインによる乾杯のグラスを掲げた。

最後に山梨県人会連合会応援歌「甲斐の炎」や「武田節」を参加者全員で熱唱、内田孝副会長が「甲州人の特徴は外に出て大きな結束力を発揮するということ。横浜開港に駆けつけてその地で活躍した三分の一が山梨県人でした」と閉会のことばを述べて、有野芳邦会長代行の万

フラダンスや舞踊、県出身者によるヴォーカルグループ

歳三唱により、午後3時散会した。

あが^まちへよう^そぞ
南アルプス市

人と自然が

共生する

南アルプス市



北岳山頂

■はじめに

南アルプス市は、平成15年に八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の4町2村が合併し、日本で唯一のカタカナの市名として誕生し、人口は現在7万3000人です。

■櫛形山にトレッキングコースを整備

本市の大きな魅力は、崇高な「南アルプス」の山々が織り成す雄大な自然環境です。日本で標高が第2位の北岳、先頃の国土地理院の山岳標高の改定により第3位となった間ノ岳などの高峰が位置します。この風光明媚な南アルプスをより多くの皆様に知っていた



南アルプス市



南アルプス市長 中込 博文
山梨、長野、静岡の10市町村にまたがる南アルプスが「ユネスコ エコパーク」に登録されることが決まりました。「人と自然が共生する南アルプス市」の実現に向けて取り組んでまいります。

だこうと、昨年櫛形山にトレッキングコースを整備しました。南アルプスの山々のすばらしい眺めと勾配も緩やかでもとても歩きやすいコースが人気を博し、高円宮妃殿下をはじめ多くの来訪者に楽しんでいただいております。

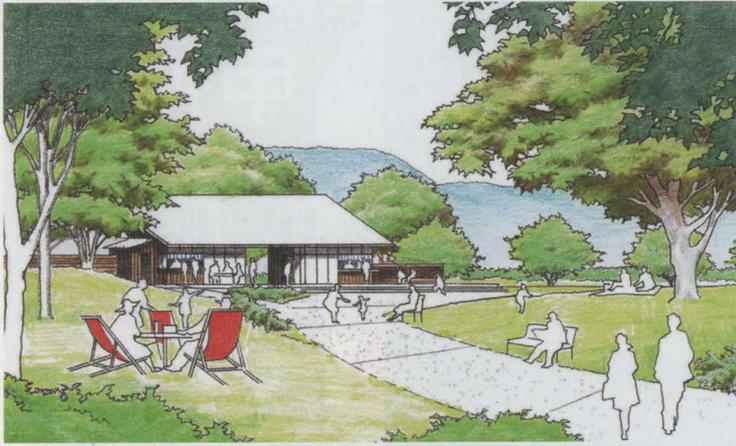


トレッキングコース展望台からの南アルプス



■競争力のある6次産業化都市を 目指して

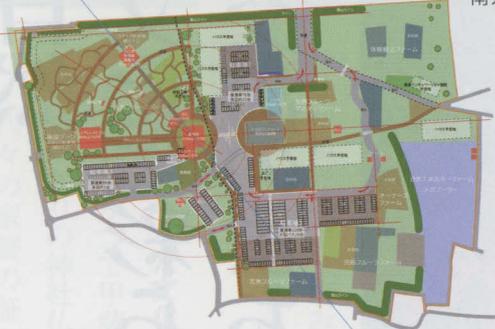
本市は、果樹栽培に適している気候条件から、「桃」、「すもも」、「さくらんぼ」などの栽培が盛んで、フルーツ王国・山梨の一翼を担っ



南アルプス完熟農園イメージ

ています。特に、すももは日本一の生産量を誇り、本市が発祥の地である「貴陽」は、世界一の重さの「すもも」として平成24年にギネス登録されておりあります。

果樹栽培のほか、そ菜、花き農業も盛んですが、農業就労者の高齢化や後継者不足により耕作放棄地や荒廃山林が増えてきております。



そこで、中部横断自動車道・南アルプスICの南側に、地域固有の財産である農林業を蘇らそうと(株)南アルプス

プロデュースを設立し、南アルプス市農業のショーウインドウとして、農産物直売所、採れたての果物や野菜を味わうことができるレストランやカフェなどを集積させた拠点施設「南アルプス完熟農園」の整備に着手しており、来年4月のプレオープンを目指し、準備を進めております。

■ユネスコ エコパークに登録

6月12日、スウェーデンで開催されたユネスコMAB国際調整理事会において、南アルプスが「ユネスコ エコパーク」に登録されることと決定いたしました。3000メートル級の峰が連なる南アルプスには、固有種のキタダケソウ、絶滅危惧種のライチョウやカモシカなどの貴重な動植物が生息し、日本を代表する自然環境が残されております。一方で、豊かな自然を活かしたエコツーリズムといった自然と調和した活動が行われていることが、評価され

たものであります。

今後は、山岳地帯の貴重な自然を守り、未来へ伝えていくということだけではなく、ユネスコの基本理念である「人と自然とが共生し、平和で豊かな地域をつくる」ことを、市民と行政が一体となつて進めていくことが重要です。

また、エコパークに登録されたことにより注目度は一気に高まり、国内外より多くの来訪者が見込まれ、世界的な観光地として将来発展していく可能性が大いにあり、経済の活性化も期待されます。

南アルプス市の資源である豊かな大自然とおいしい果物などを活用し、日本中、世界中から人々が集まる「人と自然が共生する南アルプス市」の実現に向けて、様々な事業に取り組んでまいります。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

あか^まちへようこそ

甲州市

豊かな自然 歴史と文化に彩られた 果樹園交流のまち甲州市



甲州市



甲州市長 田辺 篤

豊かな自然に恵まれ、モモ、ブドウ、ころ柿など高品質の果実、武田家ゆかりの文化財や近代産業 遺産など、日本でも有数な歴史遺産と地域文化に包まれた甲州市に、ぜひ、おいでください。

美々しく雄大な自然、優しく香り高い果樹に包まれたまち甲州市。日本百名山の大菩薩嶺から連なる山脈と清涼な溪谷に抱かれ、安らぎと穏やかさに満ち溢れた果樹園風景を歩くと、誰も気づかなかつた「もうひとつの風景」があります。



■豊かな自然と美しい果樹園景観

本市は、総面積の約8割を森林が占め、日本百名山である大菩薩嶺をはじめとする大菩薩山系や秩父山系など北部の山々は、秩父多摩甲斐国立公園に指定されており、こうした森林地域をはじめ、清らかな水の流れる溪谷、河川など、豊かな自然に恵まれています。幾多の溪谷や支

流が複合扇状地をつくり、なだらかな斜面に広がるブドウやモモなどの果樹園は、個性豊かな景観を形成して、果樹園景観は農村風景の中でも特筆すべきものとなっています。これらの自然や景観は、甲州市に訪れる人々に憩いとやすらぎを与え、すべての市民の愛着と誇りを感じることのできる、かけがえのない貴重な財産として、今もなお美々しく輝いています。

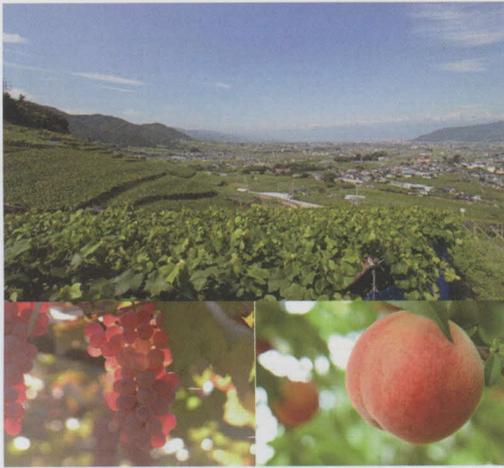




■果樹生産が織りだす産地の魅力

ブドウ、モモ、スモモ、カキ、サクランボ、イチゴなどの果樹栽培を中心とした農業が基幹産業となっております。品質、生産量ともに日本有数の産地として知られています。

また、勝沼地域を中心に30社を越すワイナリーで醸造されるワインは、生産量でも日本有数の産地になっており、地元のブドウを使ったワインの品質は国内外においても高く評価されています。



ころ柿も味・品質ともに

高く評価されており、柿を軒先につるす風景は冬の風物詩にもなっています。このほか、ブドウ、モモ、サクランボ、イチゴなど年間を通じて様々な果実を味わうことができます。観光農園が多数あるなど、果樹を中心とした農業を基盤にした産業が集積しています。

さらには、これら多様な資源を一体的かつ有効的に活用し、より多くの人が行き交う新しいまちづくりとして、果樹産地を巡るウォーキングやハイキング、フットパスなどの体験型観光の取り組みには注目が集まり、多くの方々が産地の魅力を楽しんでいます。

■歴史に彩られた文化遺産の宝庫

本市は、かつて甲斐の国を治めた武田家ゆかりの神社仏閣が多数存在し、代々の家督の証とされる国宝



「小桜葺威鎧 兜、大袖付」を有する菅田天神社、信玄公の菩提寺である恵林寺、勝頼公の菩提寺である景徳院、日本最古の「日の丸の御旗」、風林火山で有名な「孫子の旗」などを有する雲峰寺、「実戦軍配」、「武田軍旗」などを有する栖雲寺などゆかりの深さを感じさせます。

これらの仏閣のなかでも、恵林寺庭園や栖雲寺庭園など当時の禅僧により作庭された庭園は国や県の名勝に指定されており、市民や観光客の憩いの場所ともなっています。

さらには、大善寺本堂、向嶽寺「絹本著色達磨図」が国宝に指定されているほか、多くの重要文化財が存在しています。

これらとともに、国内のワイン醸造発祥にまつわる産業遺産など近代産業遺産も数多く点在し、甲州街道や鎌倉への古道など、悠久をわたる歴史文化遺産が残っています。

このように本市は、いにしえの文化と先人たちが継承した甲州市の宝庫として全国各地から注目が集まっています。

自然	大菩薩嶺（日本百名山）・黒川鶏冠山（山梨百名山）・笠取山（山梨百名山）・三窪高原・小金沢山（山梨百名山）・源次郎岳（山梨百名山）・大菩薩湖（上日川ダム）・嵯峨塩湊谷・一ノ瀬渓谷・小倉山遊歩道・塩の山・ザゼン草・えんざん桃源郷・慈雲寺のイトザクラ・碓氷六桜（勝沼ぶどう郷駅）・棚横手山（山梨百名山）・ブドウ畑の景観・日川渓谷「竜門峡」・JR 甲斐大和駅の桜・奥日川の紅葉・湯の沢峠（お花畑）・大蔵高丸（山梨百名山）・笹子雁ヶ腹溜山（山梨百名山）
歴史	菅田天神社榎無鑑（国宝）・雲峰寺孫子の旗/日の丸の旗・恵林寺武田信玄墓所・柳沢吉保墓所・向嶽寺絹本著色達磨図（国宝）・甘草屋敷・放光寺・慈雲寺・滝本院・日向薬師・熊野神社・山本勘助不動明王像・甲州民家（上条集落）・黒川金山跡（国指定史跡）・大善寺薬師堂（国宝）・宮光園・近藤勇/柏尾古戦場・勝沼宿・景德院武田勝頼墓所・栖雲寺・鶴瀬/駒飼宿・有馬晴信隠居跡
文化	信玄公宝物館・甲州市木工芸館・笛吹川芸術文庫・一葉文学碑・於曾屋敷・雲峰寺宝物殿・ぶどうの国文化館・勝沼氏館跡・旧田中銀行博物館・大日影トンネル遊歩道・トンネルワインカーヴ・ぶどうの国文化館・ぶどうの国資料館・勝沼堰堤祇園の滝・葡萄酒資料館・釈迦堂遺跡博物館・龍憲セラ-
特産	ブドウ・モモ・スモモ・サクランボ・イチゴ・ワイン・ころ柿・そば・うらじろまんじゅう・ほうとう

○甲州市の観光情報については、「甲州市観光協会」のホームページをご覧ください。
・アドレス <http://www.koshu-kankou.jp/>

故郷に流れる歴史の風 (甲州市・旧塩山市中萩原)

樋口一葉



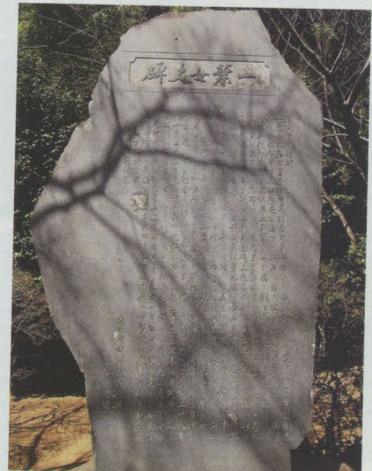
樋口一葉 (1872~1896)



「一葉のみち」は塩山駅を北東に進む
県道201号線と青梅街道との交差点から
慈雲寺に至る道。

樋口一葉（明治5.3.25 -明治29.11.23）は24年6カ月の生涯に22篇の小説他を残した近、現代文学の女流作家第一号、一般には五千円札の顔として誰もが知っているだろう。東京府庁舎で則義、たきの次女として生まれているが、父母は（甲斐国山梨郡中萩原村字重郎原・現在の甲州市中萩原）の農家の出身であり、山梨との縁は深い。父樋口則義は、天保元年（1830）果樹や養蚕を営む中萩原村の小農、樋口八左衛門の長男として誕生。母たきは天保5年（1835）に同村中農の古屋安兵衛の長女として誕生している。一葉の祖父、樋口八左衛門は貧しい果樹農家の長男だったが、利発で学問好き、また正義感の強い人物だった。南喬と号し、漢詩、俳句など文芸に親しみ、土地の子供らに読み書きを教え、農民たちの手紙や文書の代筆をしたりするうち、村のもめごとや訴訟の弁護の役をかうようになる。嘉永5年（1852）、水飢饉により困窮する農民たちの総代となり、江戸に上り、時の老中に命懸けの駕籠訴を決行。1~2ヶ月の入牢で釈放されたが、この気骨ある祖父八左衛門の生き方は、一葉の文学精神にも強く反映している。八左衛門の志向を継承し、百姓としては異例の学問好きだった父則義は地元慈雲寺の寺子屋で修学「生来農を好まず、経書に心を寄せ」と自ら記し、農村からの脱出に意欲を傾けた。たきの古屋家が慈雲寺の前にあることから、恋仲となる。2人の仲は深まり、たきは身重の体になるが、中農の古屋家は入牢歴がある小前百姓の樋口家の者との

結婚に反対した。安政4年（1857）4月6日則義とたきは、駆け落ちを決行、鎌倉往還（街道）を、御坂峠、河口湖、山中湖、足柄峠、小田原を経て8日間かけて、江戸に到着した。この時、則義28歳、たき24歳。則義は書物150冊を売って費用を作ったという。明治維新後則義は、新政府の下級官吏に転身し、警視局庸となり58歳まで勤務しているが60歳で病没。父や兄の死により、一葉が女戸主となったのは17歳。小説家を志したのは、母と妹を養うためであった。貧乏底をつき龍泉寺町で荒物屋を営みつつ、一葉は『ゆく雲』『にごりえ』『十三夜』など近代文学の名作を次々に執筆。「文学界」に連載した『たけくらべ』が森鷗外や幸田露伴の目に止まって評判になったのは、「文芸倶楽部」という雑誌に一括掲載されてから、死ぬ数ヶ月前のことである。名声は一挙にあがったが、借金に借金を重ねる生活のまま世を去る。享年24歳。一葉が没して26年後の大正11年、一葉を偲んで、父母ゆかりの地、甲州市慈雲寺の境内に一葉女史碑が建立された。石碑の裏側には建立賛助者として協力した佐藤春夫、田山花袋、坪内逍遙、森鷗外、与謝野晶子、与謝野寛など日本を代表する近代文学者の名前が刻まれている。樋口一葉という天才は、甲州市をルーツとした血脈から育まれたのである。



意外に知らない

ふるさとの都市伝説

vol. 3

めっちゃかもんの破天荒なエネルギー

40キロの荷を背負って笹子峠、小仏峠を注復した若尾逸平



若尾逸平 (1821～1913)
(南アルプス市・旧白根町出身幕末期、甲州の一介の行商人から身を起し、明治以降日本を代表する実業家として、東京電力他の公益事業、鉄道事業を完全に掌握した甲州財閥の巨頭)

甲州商人の歩いた跡には、ぺんぺん草すら生えない・・・いわゆる「めっちゃかもん」、負けず嫌いで金銭への執着が半端でない、という甲州商人のイメージは根強い。けれど甲州の行商の源を考えれば、もっと朴訥なものだったはずだ。江戸時代後期、甲府は城下町として発達し、甲州街道や富士川水運を利用した物流が活性化して、甲府市を中心に有力商人が現われた。それと呼応して農間余業として行商を始めた百姓の一群が、甲州商人のルーツである。もともと肥沃とはほど遠い甲州の土地柄、年貢として納めるべき米が獲れないのだから、田に出るよりも荷を担って直接売買することが死活問題だった。また山間の地で交通網は険しく周囲は峰ばかり、これほど行商に適さない地はないにもかかわらず、甲州商人は地力を発揮した。幾つもの峠を越える足腰の強さと「おべえてろ」という負けん気である。この行商という名の放浪の過程で、「ただモノを売り買いするだけじゃあだめだ、交換を繰り返すうちに、どうモノの付加価値を高めるかが勝負だ」に気付いた甲州もんが、財を為してゆくのであり、その代表格が若尾逸平だ。若尾は文政3年(1820)12月、甲斐国巨摩郡在家塚村(現、南アルプス市)

で村役人の右衛門の二男として生まれた。小役人の家柄とはいえ田畑は乏しく、貧しい一家だった。そこで十七歳の時、逸平は武士になって身を立ようとして江戸に出たが商人に頭が上がらない武士の姿を見て嫌気がさして地元に戻ると、自らの庭で栽培した桃やタバコを持って信州に行商に行った。小金がたまると、今度は利益の多い木綿仲買商となり、真綿、繰綿などを近隣各地や江戸までの約160キロの道のりを一睡もせず、40キロ近い荷物を背負って、険しい峠を越えて運び、帰りは甲州で売れる商品をもってとんぼ返りで引き返すという体一つの行商を続けた。自家栽培の僅かな桃やたばこを元手に、利ざやの大きい真綿を仲買として江戸で売りさばくという力業を、40歳近くまでやり続けたのである。安政六年(1859)5月、横浜が開港となり、鎖国に幕が降ろされ、横浜を中心とする外国貿易が盛んになってくる。生糸の貿易に着目して幕府という官の力を借りずに、いち早く海外に売り込んだのが、甲州商人たちだ。その1人として若尾はイギリス商館の外国商人と体当たりで交渉して売買に成功、当時全世界の生糸のシェアの70パーセントを横浜が占め、ヨーロッパ全ての女性が日本のシルクの靴下をはいていたという。若尾は国内の8倍の高値で海外に生糸を売り、巨利を得た。明治以降、若尾が日本の実業界のトップになる経緯は省略するが、笹子、小仏峠を40キロの真綿を背負い、ひたすら峠道を這い登る破天荒なエネルギーこそ、めっちゃかもん(甲州魂)であり、それは横浜開港という、全世界に開かれた交通を利用し、まだ未知なる交易のルート開拓する精神に繋がるものだったのである。



1859年 横浜開港の絵図

第66回中野区山梨県人会開催

県 人の根っこは強いぞと70名が参加

第66回中野区山梨県人会（土橋正会長・甲府市出身）が3月23日（日）中野サンプラザ11階で、70名の参加者を得て開催された。土橋会長は「高齢化に伴い、会員も減る傾向にあるので、新会員の獲得に力を尽くしたい。先日体力の限界を試そうと伊勢神宮まで、7時間かけて1人で車を走らせたが、高齢となってもチャレンジ精神を持って行動すれば視界がひらける」と語った。

来賓祝辞として布施智樹東京事務所長が、大雪によるハウス被害への県の取り組みや、11月から始まるリニアの試乗等について紹介した。田中大輔中野区長は「平成20年に中野区と甲州市が、里町連携同盟を結んだ。先頃の豪雪では山梨の葡萄園が甚大な被害を受けたと聞いている。中野区としても山梨へのツアー企画を推進する等、力をあわせてお互いの地域を活性化させたい」と述べた。

弦間明県人会連合会会長は「土橋会長の言うように若さを保つには行動力が必要。先日ユネスコの前事務局長の松浦さんから富士山の世界文化遺産に至るまで、どれだけ努力したのか、という話を聞いて感銘を受けた。それは富士山を芸術、信仰の対象とする揺るぎない原点を継承、共有することだったという。これを踏まえて県人会連合会としても、原点としてのふるさと愛、絆を継承しつつ、組織に新しい価値を付け加える活動をしたい」と語った。

松本文明衆議院議員は、山梨が豪雪にみまわれた折、被災地域を訪れた国の対策責任者が「おまん、こんな雪の日になんてきただ。味噌も米もいっばいあるから泊ってけし」と地元のお年寄りから逆に慰労されたということで、山梨県民の根っここの強さ



を感じたと話した。

渡辺喜一中野区県人会顧問（元県人会連合会会長・富士吉田市）が「亡妻の墓参りのために先日山梨に戻ったが、くつきりと早春の空に聳え立つ富士山の美しさに、生まれて初めてといていいほど、改めて感動した」と語り、懇親会の乾杯の音頭をとった。坂井寛子練馬区県人会長（河口湖町）による日本舞踊「男橋」等を楽しみ、プロ歌手並みの土橋会長のカラオケも披露され、藤巻茂常任理事（中央市）の万歳三唱により閉会した。

大雪被害の寄附金受納式

山 梨県人会連合会より寄附金贈呈
豪雪被害を発展の契機にしたいと横内知事が

語る

4月2日2時30分より、山梨県東京事務所知事室にて、大雪被害の復旧に対する、山梨県人会連合会から山梨県への、寄附金受納式が開かれた。布施智樹事務所長の司会により、山梨県人会連合会からの出席者、弦間明会長、有野芳邦、中村忠正、志村司郎各会長代行、長沼真事務局長が紹介された。



弦間会長より横内知事へ寄附金目録（3月31日時点迄の寄附金総額176万6千円）が贈呈された。続いて横内知事から弦間会長へ感謝状が読みあげられ、贈呈された。横内知事は「ふる



さと山梨の豪雪被害に対して、格別の配慮をいただき心より感謝する。葡萄ハウスは8割倒壊したが、ハウスの再建については国が9割負担することで合意している。単に元に戻すということだけではなく、不幸を幸福に変える発想の転換が求められている。この被害を、果樹農園の発展、拡大の契機にしたいと思っている」等とお礼の言葉を述べた。

西東京県人会第30回総会開催される

桜 が満開で春爛漫の4月5日、来賓四名を含め25名が、田無の西東京市役所の会議室に参集した。

末木会長は冒頭の挨拶の中で「市長就任期間の16年間を含めて30年間西東京市の県人会会長を務めて来たが、一時は200名を数えた当県人会員が、現在48名になっている。今日30年目の節目を迎えた機会に、どのようにしたらこの会が活性化され発展するか、この後の懇親会の場で、ざっくばらんに話し合ってみよう」と述べた。続いて山梨県東京事務所長から挨拶があり、2月の大雪被害の状況や、国文祭、富士山のユネスコ文化遺産登録、リニア新幹線、高速道路等交通インフラの改善対策等、心強い県政の現状等が紹介された。

続いて県人会連合会の長沼事務局長が挨拶を行い、県人会連合会も会員増員と若返りが重要課題である事と「ふるさとリンクページ200」に基づく活動や「やまなしワンハンドレッド倶楽部」の活動の趣旨や具体的実態についての状況説明をした。更に小金井市山梨県人会の武井会長が挨拶し、



現在小金井市県人会は13の法人会員を含め68名の会員を抱え、市民祭り等の機会を捉えて山梨出身者を見つけ出して入会を促している事等、活動の実態を紹介した。

更に国分寺市県人会の藤田副会長が挨拶し、『国分寺市の県人会は一昨年第20回を迎えたが、発足当初は200名いた会員が、現在は70名と減少している為、先ず活動が出来るスタッフを4〜5人集めて何とか活性化の端緒を掴みたい』と述べた。総会の議事は保坂事務局長による事業報告、新井勝子会計による会計報告、細田勇雄監査による監査報告が行われ、26年度事業計画及び予算は、役員改選後改めて、30周年記念事業の策定と一緒に決定する事とし、以上について全て承認可決した。引き続き市庁舎内のレストランで賑やかに和やかな懇談が行われ、19時過ぎ閉会した。

第24回山梨県人会連合会

女性の会総会・懇親会開催

思

いやりのころを共に生かす会にしたいと、中込会長

4月11日(金)午前11時30分よりアルカディア市ヶ谷にて、第24回山梨県人会連合会女性の会(中込勝子会長)の総会・懇親会が約100名の参加を得て開催された。

中岡啓子副会長の司会進行により総会が開会、野本莊子副会長の開会の言葉に続いて中込会長が「女性の会は来年四半世紀を迎えます。これからは



来賓祝辞として松谷莊一県政策局長が、都合で欠席となった平出巨副知事のメッセージを代読した。

弦間明県人会連合会会長は「サミュエル・ウルマンの詩の、青春とは人生のある時期をいうのではなく心の様相をいうんだ、という言葉が、まさしくあてはまる総会になったと感じている。ウーマノミクス(女性の社会への進出)が育たないと日本は成長してゆけない。そのためには女性を登用する環境作りをしなくてはならない。そしてまたパフォーマンズを出さないと長続きしない。つねにここが燃えている会にしてほしいと願っている」等と語った。間中寿美恵監査の閉会の言葉で総会が終了。中村忠正連合会会長代行が乾杯の音頭をとり、日本舞踊や早大OBによる「おやじバンド」のミニコンサートを楽しんだ。「青春時代」を壇上で熱唱した志村司郎連合会会長代行の万歳三唱により、午後3時散会した。

次世代を担う方々の台頭に力を入れ、歴史を築いて下さった方々と共生しながら、思いやりの心を共に生かしたい。今日は山梨の雪害に対する義援箱を置かせていただいた。幸いにも女性の会のみなさん

は、会の活動に楽しく関わっていることがエネルギーとなつていく。歴史の一コマに残るような意義ある活動を中心ひとつにして進めていこう」と挨拶した。赤坂道子事務局担当の活動報告、櫻井操会計担当、大澤菊子監査担当による会計、監査報告等があり、

第33回甲斐クラブ・ゴルフコンペ

4

月17日木曜日、八王子ICから程近い武蔵野ゴルフクラブで、33回目となる「甲斐クラブ」(井上幸彦会長)が開催された。



当日は小春日和のコンディション。ポカポカ陽気に誘われ、参加した9選手もリラックスしてのびのびとプレー。結果は86(ネット72・8)で回った秋山七男さんが、32回大会に続く連覇を達成することとなった。秋山さんは甲斐クラブに名称変更された19回以来、2度目の連覇で通算6勝目。優勝の常連であることを裏付ける安定した内容だった。2位にはこちらも87(ネット73・8)と素晴らしいスコアにまとめた井上会長が入った。34回のコンペは10月頃の土曜日に都留CCを予定。詳しくは県人会連合会フェイブックで。

ヴァンフォーレ甲府 浦和戦

グ

ッバイ・ナショナルスタジアム。

ホーム・ヴァンフォーレ甲府がゴールデンウィーク最終日となる5月6日、東京・国立競技場に浦和レッズを迎え撃つ一番が、今年はJリーグの国立ラストゲームにも重なった。シーズンに入り徐々に調子を上げ、名古屋、横浜M、柏とビッグクラブを次々に撃破。大物食いに成功しているだけに、この日の甲府サポーターの期待は大きく膨らん



だ。

キックオフまでまだ3時間もあるというのに、青装束のサポーターたちが続々と千駄ヶ谷門をくぐっていく。例年はアウェー側から侵食してくるレッズサポーターに押され気味なのだが今年は違う。3万6505人の大観衆を赤と青とに

等分する勢いで、ホーム側の観客席を埋め尽くしていった。その中には県人会連合会関係のサポーター170人も含まれており、熱い声援をピッチに送った。

その思いは甲府イレブンに、確かに届いた。首位レッズの波状攻撃をしのぎ切り、限りなく勝ちに近いスコアレスドローで勝ち点1をゲットした。

170人のうち、60人の県人会連合会関係者は、徒歩で北青山の「T・A・M・A」に移動。その顔ぶれは連合会の幹部から大手企業のビジネスパーソン、経営者など20代から70代まで実に多彩。甲州ワインなどを片手に交流を深めつつ、会場の大型スクリーンに映し出されたVF甲府のゴールシーンにも歓声が上ががり、大いに盛り上がった。

世代や業種を超えた交流会は出席者にも新鮮な刺激を与えた様子。「山梨県の関係者がこんなにおられるとは考えたこともなかった。山梨でつながれるって、本当にいいですね」（BS放送局勤務）との声も上がった。山梨県在住の人々を含む県出身者をつないでいく「リンケー



「200」構想は、確実に現実のものとなりつつある。

足立区山梨県人会 第66回総会を開催

皇 月晴れの5月11日、綾瀬マリージュにて、来賓を含め50名が参集した。

定刻11時に会旗入場が有り、窪川義也副会長の司会により会が始まった。古屋義雄監査の開会の辞の後、有野芳邦会長は挨拶で「当会は昭和14、15年から千住在住の内田高義氏等が懇親会を重ねていたのを契機に、昭和23年5月に足立区山梨県人会が発足した。以来今回で66回目を迎えるが、実に長く尊い歴史であった。本日は永年に亘り会の発展に多大な貢献をされた方々に心を込めて感謝の記念品贈呈を行う。当会は今後も新規加入者の増加を積極的に図り、連合会と連携を保ち、会員相互は勿論、ふるさと山梨との交流を深め、会の発展の為に全力を尽くして行きたい」と述べた。

その後議事に入り、総て承認可決された後、永年功労者35名への感謝状と記念品贈呈が行われた。その後弦間明県人会連合会会長が祝辞で、「足立区県人会の本日の総会は、長い伝統と会員相互の信頼による会の方向性が表れていて素晴らしい」と述べ、山梨県人会連合会の「ふるさとリンケー200」の6つの核となる活動と、その推進により県人会活動の方向性を明確にしたいと述べた。



山梨県東京事務所の布施所長は挨拶で、当会の会員が

県人会を通して長年に亘り山梨の為に貢献されている事に胸を熱くしたと述べ、県が現在取り組んでいる、富士山の文化遺産登録関係、リニア中央新幹線関係、オリンピック関連等の諸施策や、今年度からふるさと納税者に対する県産品の贈呈について述べた。総会は中岡啓子副会長の閉会の辞となり、懇親会が始まった。

有野芳邦会長のご息女で二期会会員ソプラノ歌手の梶千草さんによる洋楽から「荒城の月」まで、声量豊かな美声が披露され、その他に日本舞踊有り、カラオケ有りと、楽しく賑やかに懇親会が進んだ後、小林弘副会長の閉会の言葉により、15時過ぎ盛会のうちに閉会となった。

平成26年度第1回常任理事・理事合同会議開催される

より、平成26年度第1回常任理事・理事合同会議が開催された。

5 月13日に上野精養軒に於いて、52名の参加により、平成26年度第1回常任理事・理事合同会議が開催された。

会は伊藤朝子総務委員の司会により、長田正総務委員長の開会の言葉が始まった。弦間会長は冒頭の挨拶で、「これから今年度第1回常任理事・理事合同会議の挨拶を兼ねて、第65回総会の、冒頭の挨拶で話す今年の県人会連合会の活動の基本的な事について述べるが、予め承認を頂きたい」と、次の通り述べた。「今ふるさとやまなしに大きな可能性を見させる明るい話題が続いている。その可能性を現実のものとする為に山梨県人会連合会は、85万人の山梨県民と首都圏の120万人の山梨県人を合計した200万人の力、つまり「ふるさとリンケー200」構想」に基づく活動を行い、私達一人一人がやまなしの魅力を全国に、アジアに、世界に伝える

活動を行っている。またその活動を継続的に推進するため、LINKAGEの各文字を頭文字として、順次インパクトの有る活動を推進している。本格的推進の2年目にあたる今年度は、Iを頭文字とする「ideal・理想」に因んだ「私たちは理想的な友人である」をテーマに活動している。その活動のエンジンとして、①県民と県人の交流②各自自治体の首長と連合会幹部との交流③現役経営者と若者との「やまなしワンハンドレッド倶楽部」の開催④「やまなしカミングデー」の開催⑤水源林植樹会の開催⑥ふるさと納税の拡充などを推進している。これからも山梨県人会連合会は、県民・県人の交流の機会づくりに貢献し、ふるさと山梨の成長・発展・進化の為に努めて行きたい。」

次に新任役員が紹介され、浅川修氏・石川東洋男氏・赤坂道子氏・井上若子氏・飯窪光隆氏・間中寿美恵氏（一部欠席）等が紹介された。

続いて議事に入り、各委員会報告が行われた。先ず長田総務委員長より、(1)第65回定例総会の件について、①総会次第②懇親会次第③総会収支予算(案)④平成26年度収支予算(案)が上程され、平成26年度収支予算案について、一部表示変更の意見を取り入れられ、その他については承認された。続いて土橋正副会長から、役員改選について上程され、事業委員長に中岡啓子氏が、会計に飯島登美夫氏と中村芳文氏が、監事に伊藤朝子氏が新任役員に選任され、その他の役員は全員重任される事となった。同じく土橋正副会長より、会則改定について上程され、会長代行の定員を4名から、若干名にする。役員定年の補則規定を設け、委員長を80才定年とする旨上程され、全て承認可決された。

続いて中岡啓子会計から、平成25年度収支決算報告承認について上程され、承認可決された。

続いて中込勝子組織委員長より5月9日に開催された「発足前組織委員会」に於ける議事内容が発表された。先ず若手の県人会活動への取り込みを図る為、青年部の活動や「やまなしワンハンドレッド倶楽部」の活動を、県人会幹部会が積極的に支援する。此の糸の会を活性化させ、未加入の若手県人の導入口とする。郷友会組織による県人会の増設を図る等が話し合われた旨述べた。弦間会長は「富士重工やアサツキDKの社内に山梨県人会組織が有り、若い県人が沢山加入している。そちらへ中込委員長や若い県人会会員が同行して、「やまなしワンハンドレッド倶楽部」等の活動について説明し、県人会連合会への参加を勧める事も良いと思うので、ご協力を願いたい」と述べた。

続いて中岡啓子事業委員長から、今年の4月26日に「水源林植樹会」を奥御岳の甲府市有林にて実施し、45名の参加により成功を収めた。また同じく「ふるさとカミングデー」の準備も7月1日の今年度第3回目の事業委員会の開催時から準備に入ると述べた。

更にふるさと納税推進委員長の内田孝氏から、本年は昨年より引き続きより積極的活動推進の手段として以前からの要望事項としていた、ふるさと納税者へのお礼品贈呈について、今年から1万円以上の「ふるさと納税者」に対して、山梨県から3千円相当の県産品を贈呈される回答を得た。また今後も従来から山梨県の美術館・文学館・博物館・考古学博物館の4館の入場券の贈呈や、県人会連合会によるふるさと納税者への御礼品抽選会を継続して行く。従って県人会連合会全体が更に連帯感を持って、これまで以上の目標値を定めてふるさと納税を推進して行くこと述べた。

次に所用により欠席の萩原能成広報委員長の報告

事項を長沼真事務局長が代読した。平成25年度富士の国発行経費の収支は、ほぼ予算通りとなった。今後の目標としては、低減しつつある購読者数の回復を図る事と、県人会連合会の重要な情報誌としての役割を向上させるため紙面の充実を図りたい。

次に同じく欠席した坂井寛子芸能委員長の報告を、長沼真事務局長が代読した。内容は今年度の総会時の懇親会の演芸の演目、出演者等であった。

議事は以上で終了し、最後に長沼真事務局長より第65回総会の準備の進捗状況についての報告が行われた。

議事等の終了後、今年度から山梨県東京事務所の次長に就任された、石原洋人氏が紹介され挨拶を行った。最後に中込勝子副会長が閉会の言葉を述べ、午後3時過ぎに閉会した。

第67回品川県人会総会・懇親会開催

明るく楽しく絆を深める会に

5月18日(日) 正午より品川区五反田「ゆほうと」にて、第67回品川区山梨県人会(長田正会長・旧上野原町出身)の総会・懇親会が約90名の参加を得て開催された。加藤一興副会長(旧塩山市)の司会進行により総会が開会、長田会長は「アベノミクスによる経済効果などにより、日本によく明るい兆しがみえたなかで品川県人会としても多くの県人会関連の行事に積極的に参加して絆を深め、充実した1年だった。今後もふるさとを愛するところを大切にして活動したい」と挨拶した。弦間明県人会連合会会長は、「67回を迎える品川の会から、県人会は明るく楽しく美しく活動することが持続に繋がるといふ思いを強くします」と、何より楽しい品川県人会の会の雰囲気を読んだ。古明地博仁

首都圏で催された集いを紹介しています



副会長（旧牧丘町）の閉会の言葉により総会が終了。志村政彦副会長（都留市）の司会により懇親会に移り、網野友子顧問（旧御坂町）が開会のことばを述べた。



石原宏高衆議院議員も途中参加し、スピーチした。日本舞踊や、両親が南部町出身の歌手、岩崎愛子さんの歌謡ショーを楽しんだ。自身も作詞を手がける岩崎さんは伸びやかな澄んだ歌声で会場をめぐりながら懐メロを披露、弦間会長も「気持ちの清らかさが声に現われている」と賞賛した。

参加者によるカラオケ等を楽しみ、長田会長他有志が壇上にたち、恒例の武田節やふるさとを熱唱、午後3時散会した。

山梨県人会連合会青年部 「ほうとう会」第23回総会開催

若 い山梨のパワーを結集させて連携の場を作る
うと94名が参加

5月22日（木）午後6時半より千代田区内幸町富国生命ビル28階にて、山梨県人会連合会青年部「ほうとう会」（小林中央部長）の第23回総会が94名の参加を得て開催された。小林部長が「会員が増えてよろこばしく思っています。山梨出身の経営者と若手の企業家との交流するやまなしワンハンドレッド倶楽部の開催や、県の雪害の折のボランティア活動など、ほうとう会の仲間が連携し、活動の輪が広がっ

ていることを実感します」と挨拶した。続いて小林部長より事業、会計報告があり、県人会連合会よりの補助金への謝辞を述べた。弦間明県人会連合会会長は、部数の激減した雑誌「暮らしの手帳」を復活させた現社長を例として、空気が読める、工夫をする、好奇心が大切だとして「単なる知識ではなく経験に基づいた知恵を生かす場、交流の場」として、ほうとう会への今後の活動への期待を寄せた。

中岡啓子連合会事業委員長（南アルプス市）は、甲府市役所と一体となって行われる水源林植樹祭や、山梨の知らないところを一泊して県人会連合会会員同士が交流する「山梨カミングデー」について紹介した。小川朗県人会理事（甲府市）からは10月17日に開催される第2回のやまなしワンハンドレッド倶楽部の紹介、フットボールの専用スタジアムを山梨に建設するうえでの署名活動への協力などが語られた。懇親会に移り、ワンコイン500円で参加できる県人会ということもあって新会員の参加も目



立った。保育士で維新塾第1期生の甲府市出身の酒井大介さんは「インターネットでこういう会があることを知り、少子化のなかでの子育てについてふるさとの人たちと意見交換ができればと参加しました」と語り、県外出身ながら山梨学院大を卒業した証券マンの林祐太郎さんは「山梨での大学生活が忘れられず同窓生に紹介されて初めて参加したけれど、なつかしくいい空気ですね」と述べた。

都留市出身の税理士、志村巧さんは、「やまなしワンハンドレッド倶楽部にも参加しましたが、税理士とはいっても思いこみで行動してしまうところがあるので最前線の企業家の話が聞けて、大変刺激を受けました」と語った。新任の横伸二郎山梨中央銀行東京支店支店長代理（甲府市）は東北大学法学部卒、仙台で暮らした経験から東日本大震災にはこころを痛めたとのこと。「故郷の銀行に就職したのは、豊かな自然と人々が共生する環境という場で活動したいという思いがあったからです」とも語った。少子高齢化により、各県人会の参加者が減少傾向にあるなか、インターネットや口こみを通じて、山梨をなつかしみ、その絆を活性化させようとする若い力が溢れ、様々なジャンルのなかでの山梨県関係者が、豊かに交流する会となった。

第51回甲府西校東京同窓会 東京支部総会開催

母 校への感謝の気持ちをひとつに

5月23日（金）港区芝の東京プリンスホテルで、第51回甲府西校東京同窓会東京支部総会（山口ひさか会長）が、96名の参加者を得て開催された。雨宮和枝さんの司会により明石弘子さんが開



会の言葉を述べた。山口会長は「今年も大勢の同窓生の笑顔に出会えたこと、また5名の男性が参加されたことをうれしく思っています。甲女時代の卒業生も39名出席されています。5月11日に西校110周年の本部同窓会総会があり、優秀な人材を多く輩

出してきた、歴史ある母校の力を改めて感じました。これからも母校を同じにすることへの感謝の気持ちをお返ししたいと思います」と語った。

来賓として長坂光子本部同窓会長が「山梨から、一木麗子、坂本悦子、羽田喜久枝各副会長の4人で来ました。東京へ来ると、空家が日本一多いという山梨の過疎化を改めて感じます。さて110周年を記念して同窓会としてのDVDを作成、母校の歴史を形にしました。今日は甲府から男性2人の若い卒業生も参加されていますので、本部と支部を繋ぐ活動を期待しています」と挨拶した。古屋権一かいじしんぶん会長は「母も甲府高女を卒業しました。この会には生きていますおふくろに会えるような気持ちで毎回出席させてもらっています。生ある限り参加していきたい」と語った。最年長(94歳)の谷節子さんの乾杯の音頭で懇親会に移り、フランス料理のフルコースの運ばれるなか歓談した。

男女共学となった一期生(昭和30年卒)の西田政子さんは同級生にこの会の案内を送り、3名の男性の参加者を得ることが出来たという。ある同級生に電話で案内したところ、その夫が出て「妻は亡くなりました。しかし同級生から案内のあったことを、とても喜ぶはずなのでどうか案内状を読み上げてください」といわれ涙したという。NHKの朝ドラ「花子とアン」で方言指導をしている西枝出身の奥山眞佐子さんは多忙ななか出席、甲州弁が初めて日本全国に認知されたと語り、一般に通じやすくするため制作サイドからも様々な注文が入り、必ずしも忠実に甲州弁のニュアンスを再現しているわけではないなど裏話を披露した。最後に「ここにして母校のいらか、玉の窓空に映えたり」と校歌を全員で歌い、浦垣輝子さんの閉会の辞で散会した。

第4回南アルプス市山梨県人会開催

南 アルプス市ブランドを世界に発信、理想のまちづくりをめざそうと県内外から110名が

参集

第4回となる南アルプス市山梨県人会(有野征雄会長)が5月25日午前11時より、町田市の八王子日本閣にて開催、110名が参集した。志村嘉雄副会長の司会により、有野会長が「昨年の雪害被害で南アルプス市も打撃を受けましたが、今日のみなさんの元気な顔を見て、復旧も順調に進んでいると感じました。南アルプス市はエコパークの推進やリニア誘致により観光に力を入れています。あの大震災後、日々のなかで感じる豊かさが、より問われています。南アルプス市県人会としては県内外に在住する県人の相互交流を一層強めたい」と挨拶した。



第4回南アルプス市山梨県人会総会、懇談会



有野征雄会長

川手正一郎顧問が「ふるさとに戻って櫛形山を見上げるところが鎮まり、母なる山とされています。八ヶ岳降ろしに吹かれて葎崎高校まで自転車で通いました。北風に向かってペダルを精一杯漕いだことが、現在の自分を支える生きる力になっていきます」と語った。弦間明県人会連合会会長は「南アルプス市としてのブランドを磨き、より一層の存在感を発揮することを期待しています。ブランドが成り立つためには信頼

性、先進性、何より躍動感が必要です。その躍動感が今日の会には溢れていると感じました。さらに成果に結びつけるサイクルをつくる、それを実践する活動に期待したい」と語った。

第2部の交流会では中込博文南アルプス市長が「南アルプスエコパークとまちづくり」と題して20分スピーチした。55歳まで自衛官だったが、その後県議、市長となった経緯を踏まえて、「人と自然、文明と調和した市を作るという理念」について熱く語った。6月にはユネスコエコパークに登録される南アルプスエコパークの概要について説明、また農業をもう一度新しい産業として立て直すため、豊富な果樹という南アルプスブランドを世界へと発信する「完熟農園」の取組など具体的展望を示した。中村忠正県人会連合会会長代行、長田正県人会連合会総務委員長がそれぞれ祝辞を述べた。深澤米男南アルプス市議会議長が乾杯の音頭をとり、ハーモニカ世界大会で準優勝した南里沙さんのハーモニカ演奏などを楽しんだ。内池虎雄副会長の万歳三唱、飯田七郎常任理事の閉会のことは午後3時半散会した。

山梨県人会十士会

第2回総会開催される

5 月21日午後6時30分より、市ヶ谷アルカディアに、22名の会員が参集した。

冒頭の挨拶で飯窪光隆会長は「昨年会員13名で設立総会を行った当会も現在24名になった。当会は1年間、山梨県への貢献、県人会連合会活動への参加の他、若さと専門性の特徴を生かし地道に活動を行って来た。今後も先ず50名の会員数を目標に更に将来は百名の会員を集め、若さと有資格者としての



特徴を生かして、県人会の活動や山梨への貢献をした。また延いては将来、県人会連合会の中心的役割を担える様に努力して行きたい」と述べた。

会は議事に入り、上程議案は全て承認可決された。

役員改選については後藤貴仁氏が新たに理事に就任し、その他の役員は全員重任となった。議事の終了後直ちに懇親会に移り、来賓

代表として、先ず弦間明県人会連合会会長が挨拶し『先程の飯窪会長の挨拶には、会の運営に必要な要素が総て簡潔に述べられており、更に将来県人会連合会の中心的役割を果たし、会員も将来50名から百名に増やしたいという言葉にも感動した。この十士会の発足を機に、県人会連合会の活性化が期待されるが、会のブランディング即ち会員を生み出す魅力を一層磨いて頂きたい』と述べた。また「ふるさとリンケージ200」の活動推進により山梨の発展、成長、進化に力を貸して頂きたいと述べた。続いて山梨県東京事務所布施智樹所長が挨拶し『当会の目標が明確に示され、会員も順調に増加し敬意を表す。「ふるさとリンケージ200」の主旨に沿って、皆さんと情報提供や山梨との橋渡し等、連携を保って行きたい』と述べた。続いて山梨中央銀行の荻原政行東京支店長が挨拶し『最近布施所長と山梨暮らし支援センターや企業の支援等について知恵を出し合っている。十士会の皆さんの大変貴重なお知恵により是非お力添え頂きたい』と述べた。暫くの間談話が続き、午後8時30分閉会した。

「第4回水源林植樹会」44名が参加

今年度より新たに事業委員長に就任した中岡啓子副会長が、『水源林植樹会は「ふるさとリンケージ200」を掲げる山梨県人会連合会の最重要事業の一つである』と訴えかけ、44名が参加した。当日は初夏の清々しい好天に恵まれ、30代から80代までの参加者が元気に7時半にバスで新宿西口を出発した。途中渋滞も無く、ほぼ予定の11時過ぎに甲府のバス乗継所経由目的地の奥御岳の植樹会場に到着し、甲府市の幹部職員の方々や、甲府市森林課の技術士の皆さん方のお出迎えを頂いた。

早速「第4回山梨県人会連合会植樹会」の開会式となった。有野芳邦県人会連合会会長代行より挨拶があり『先ず県人会連合会にとり、最重要事業の一つであるこの水源林植樹会に市長始め多くの職員より計画段階から本日迄、全面的にご協力ご支援を頂き、心より感謝申し上げます。今年はやまなしリンケージ200』のスローガンの下、各地区の県人



会の会長が率先、会員に参加を呼びかけ多くの参加者が集合した。植樹や甲府市と県人会会員相互の交流の機会を有意義に過ごして頂きたい』と述べた。その後山桜の植樹式が行われた後、いよいよメンバー全員が甲府市森林課の小林係長からの植樹の要領の現地指導に基づいて、「みずなら」の2000本の植え付けに入った。足腰に自信が有る方は、かなり急斜面への植樹にも挑戦していた。総勢約60名による2000本の植樹は40分程で終了した。

昼食会場の「マウントピア黒平」では、政務から駆け付けられた宮島甲府市長様方のお出迎えを頂いた。昼食会の席上、宮島市長は『山梨の大切な事業である水源林植樹会への参加に謝意を表したい。本日植えられた「みずなら」は新市庁舎資材にも使われている。是非また何年か後にご自分が植えた木がどの様に育っているか見に来て頂きたい』と挨拶された。司会の中岡事業委員長の乾杯の音頭で食事会が和やかな中に始まった。サブライズは、南アルプス市から桜本秘書課長と、志村県人会副会長が挽ぎ立てのさくらんぼとビールを差し入れて駆け付けて下さった事だった。

帰路は途中山梨県立図書館で、武田流花押印の展示場を見学し、内田孝県人会連合会副会長の解説に聞き入った。また同じ館内で「花子とアン」の展示をみた後、新宿への帰路について。車中は喉自慢大会さながらのカラオケで盛り上がり、道路の渋滞も無く予定の18時前には新宿着となり、一同充実感と名残惜しさを抱えつつ家路についた。



がんばれ!

新米広報・長田の
ヴァンフォーレ日記

ヴァンフォーレ甲府!



「2014シーズンもがんばります!」 皆様、ご無沙汰しております。 ヴァンフォーレ甲府 広報担当の長田圭介です。

2 014 ブラジルワールドカップ 日本代表はコロンビア・ギリシャ・コートジボワールと同組のグループCに入りました。まずは、このグループを2位以内で抜け決勝トーナメント進出を狙います。これに伴い、J1リーグは7月中旬まで中断期間に入りました。

ヴァンフォーレ甲府においては、リーグ戦4勝4分6敗(勝点16)の14位。カップ戦に関しては、予選リーグで最後の最後まで健闘するも7チーム中3位で敗退(2位までが予選通過)という結果で中断に入りました。

リーグ戦はまだ、シーズンの約3分の1の日程しか消化していませんが、ここまでの戦いを振り返ると「継続」「課題」「成長」「盛田剛平」というキーワードが出てきます。

雪害の影響により東京・国立競技場で開幕戦を迎え鹿島を相手に1-4の敗戦。開幕こそ大量失点を喫するも、その後は昨年からメンバーを「継続」したことにより戦術の浸透度も高く、昨年終盤に見せた「堅い守備」を取り戻しました。実際に14節を終えて失点14(J1で6番目に少ない)、被シュートにおいては1試合平均6・8本(J1で1番少ない)と高い守備力が数字にも表れています。しかし、その反面で得点を奪えないという「課題」にも直面します。これに関しては、14節を終えて1試合平均0・8点(J1で2番目に少ない)という状態です。



この部分は城福監督も頭を悩ましていました。特に「センターフォワード」に関しては、ザルツブルグ



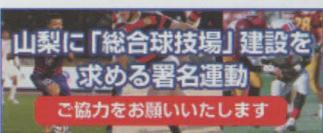
(オーストリア) からクリスティアーノ選手を補強したものの、過去所属していたハーフナー選手、ダヴィ選手、バトリック選手のような「絶対的なストライカー」タイプではないため「チームとしての最大値」を引き出すために選手の配置や組合せに頭を悩ませていました。

その中でたどり着いた「カタチ」があります。それは昨年までDFとして出場していたベテラン盛田剛平選手(37歳)をセンターフォワードとして起用すること。これは、城福監督・盛田選手にとっても大きな決断だったと思います。それほどプロの世界でも稀なことでした。

しかし、もともと盛田選手は駒澤大学からプロ入りする際に「大学No.1ストライカー」という肩書きをもって浦和レッズに加入したので、フォワードに関しての経験値が0ということはありませんでした。DFに転向したのは2005年の広島在籍時で「足元の技術がある長身DF」として徐々に出場機会を増やしてきました。また特筆すべきは人間性「37歳、J1でしかも再びFWでプレー出来ることを楽しみにしている。未だ、上手くなりたいし上手くなれると思って日々勉強中です」というコメントからも謙虚で向上心を持った人物だということが垣間見れます。この起用がチームの攻撃に「カタチ」を持たせ、暗中模索の状態から抜け出せそうな気配を見せています。

中断明けのリーグ戦は7月19日(土)アウェイでガンバ大阪戦。ここに向け、静岡県でのミニキャンプやトレーニングマッチを重ね準備していきま

す。甲府の進撃はこれからです!





やまなし 掲示板



市制10周年記念事業 甲斐市味覚探訪ツアー 「Taste of autumn in甲斐市」のご案内

《JR竜王駅から甲斐市内のワイナリー・農産物直売所を巡るバスの旅。》
 この日だけの特別な“おもてなし”でお迎えます。詳しくは会報10月号でお知らせします。
 ツアー日時 平成26年11月8日(土) 参加料 1,000円(資料・保険代)
 お問い合わせ先 甲斐市商工観光課 TEL 055-278-1708

連合会だより

第2回 やまなしワンハンドレッド倶楽部のご案内

ビジネスパーソン来たれ!!やまなし出身の現役企業トップから、金言の数々を直に聞けます。

【開催日時・場所・会費】 10月17日(金) 18時30分・於富国生命本社28階・1,000円

【申込方法】 メール又はFAXにて「10月17日参加希望」の旨と 氏名 勤務先 連絡先
 (電話・FAX番号メールアドレス)を下記へお寄せ下さい。

山梨県人会連合会事務局 yamanashi-kenjin-kai@gold.ocn.ne.jp
 電話03(3256)3093 FAX 03(3256)3015

【前回参加された経営者の方々】

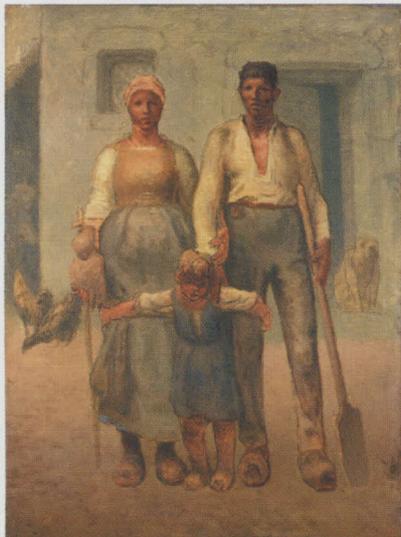
弦間 明様(資生堂) 石川國雄様(協和エクシオ) 清水喜彦様(三井住友銀行) 福田修二様(太平洋セメント)
 宮沢公廣様(エコア) 武藤直人様(富士重工) 堀内光一郎様(富士急行) 布施智樹様(山梨県東京事務所)
 鈴木 光様(三井不動産ファシリティーズ) 中村忠正様(ホテル東京) 志村司郎様(プティック社)
 保坂 悟様(ヴァンフォーレ甲府)
 [前回参加のビジネスパーソン] 87名

十士会によるよろず相談会(無料)のご案内

第1回 10月9日 12時~15時・第2回 11月19日 12時~15時 (場所) 山梨中央銀行東京支店2階会議室
 ご相談は弁護士・公認会計士・税理士・社会保険労務士・司法書士・行政書士・不動産鑑定士・建築士・
 弁理士・土地家屋調査士・中小企業診断士等、山梨県出身の各有資格がお受けします。
 お問い合わせは電話03(5366)0421 アセツアールアンドデー飯窪まで

今後の山梨県人会連合会の主な行事

月 日	事業・行事内容
10月9日(木)	第1回十士会無料相談会(山梨中央銀行東京支店 千代田区鍛冶町 1-6-10)
10月17日(金)	やまなしワンハンドレッド倶楽部(富国生命本社 28階 千代田区内幸町 2-2-2)
10月21日(火)	平成26年度第2回常任理事・理事合同会議(上野精養軒 台東区上野公園 4-58)
秋のシーズン(予定)	ふるさとカミングデー(山梨)
同 上	レモンパーティー(結婚相談)
11月6日(木)	知事とふるさとを語る会(東京會館 千代田区丸の内 3-2-1)
11月12日(水)	山梨県市長会との懇親会(KKR ホテル東京 千代田区大手町 1-4-1)
11月19日(水)	第2回十士会無料相談会(山梨中央銀行東京支店 千代田区鍛冶町 1-6-10)
12月16日(火)	平成26年度第3回常任理事・理事合同会議(上野精養軒 台東区上野公園 4-58)
12月末	ふるさと納税推進運動終了
1月29日(木)	新春賀詞交歓会(KKR ホテル東京 千代田区大手町 1-4-1)



《農民の家族》
1871-72年 油彩・カンヴァス ウェールズ国立美術館蔵
Lent by Amgueddfa Cymru - National Museum Wales

2014年は、ジャン=フランソワ・ミレー(1814-1875)の生誕200周年にあたる年です。本展はこれを記念し、日本初公開のミレー作品を含む約80点によりミレーの画業を回顧します。

ミレーは、それまで絵画の主題とはなりえなかった農民の労働の様子を見つめ、宗教性をもたえた荘厳な農民画の世界を生み出しました。その背景には、フランス初の風景画派の誕生の地となったバルビゾン村の自然豊かな制作環境がありました。本展では、初期から晩年までの作品をご紹介しますとともに、家族の肖像や生活の情景を描いた作品に焦点をあてることで、ミレーの作品世界の新たな広がりをお楽しみいただけます。



《牛に牧草を食べさせる女》
1858年 プル王立修道院附属美術館
Bourg-en-Bresse, musée du monastère royal de Brou
© photo Hugo Maertens, Bruges



《子どもたちに食事を与える女(ついばみ)》 1860年 油彩・カンヴァス リール美術館蔵
© RMN-Grand Palais / Jacques Quecq d'Henripret / distributed by AMF

生誕200年ミレー展 —愛しきものたちへのまなざし—

2014年

7月19日[土]～8月31日[日]



開館時間 午前9:00～午後5:00(入館は午後4:30まで) 休館日 7月22日(火)、28日(月)、8月4日(月)、25日(月)無料 観覧料 一般1,000(840)円 大学生500(420)円 ●()内は20名以上の団体料金、前売料金、宿泊者割引料金 ●小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童・生徒は無料 ●障害者手帳をご持参の方はご本人と介護の方1名が無料 前売券取扱 山梨県立美術館、山日YBS本社受付、山日YBS富士吉田総支社、ローソン、セブン-イレブンにて発売(4/22～7/18)

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art

山梨県甲府市貢川1-4-27

TEL 055-228-3322

八王子日本閣

うれしさ、
たのしさ、
今すぐあなたに

レストラン「フローラ」

tel. 042-676-4128

ランチメニューが1800円から。
ディナータイムに利用できるし、デートにもおすすめ♪



- ◆営業時間 10:00～22:00
- ◆ランチコース 11:00～14:30
- ◆ディナーコース 17:00～22:00
- ◆単品メニュー 1,575円～、ケーキ525円～

毎週土・日ブライダルフェア開催中!



教会式、人前式、神前式、3つの挙式が叶う八王子日本閣では、
毎週土・日ブライダルフェアを行っています。
ご結婚を考えているカップルには、無料で試食も行っています。
予約がなくても、当日でもご用意可能!

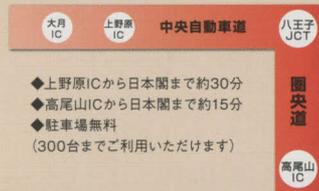
ご宴会・会食



会社のパーティーやご家族のお祝いは美味しいお料理にお得なプランを!

◆パーティープラン 7,000円～

お車でのお越しの場合、大月ICから約45分!
今までより約20分短縮!



圏央道
高尾山ICと八王子JCT間が開通!
こんなに近く、
便利になりました!

八王子日本閣

電車でお越しの場合、大月より八王子特急利用で30分!



八王子駅から無料シャトルバスを
ご利用いただけます
(JR八王子駅/所要時間 約20分(みなみ野駅経由))

八王子日本閣 

東京都町田市相原町 1008
http://www.noce-ange.com/

ご予約
お問合せ

042-676-4122

予約受付時間09:00～21:00(火曜日定休)